

遊便



遊便（第11号）
発行：医療法人 仁風会
発刊日：平成28年10月6日

巻頭言

「かわっていくもの、いかないもの」

医師 佐藤 幸子

八雲病院に勤めて二回目の夏が訪れました。暑くても、長距離の通勤がそれほど苦にならずに通っています。きっと八雲病院の家庭的な雰囲気にならまされていることが大きいのでしょうか。感謝してもしきれないくらい嬉しいです。

研修医時代（平成九年）に一年間、日当直で来させていたでいていました。いま新鮮な気持ちで勤めさせていたでいています。病棟、廊下などふとしたときに当時のことを思い出します。前院長に論文を読むようにと渡された事がありました。翌週感想を聞かれましたが「すみません、（まだ）読んでません」と情けなく答え、前院長に絶句されたことを覚えています。このようにのんびりとした私にも、出会った際には温かく声をかけていただきました。前院長のお人柄や、八雲病院の雰囲気にならまされ勤務を希望しました。

米子育ちの私ですが、松江はまったく知らない土地ではありません。松江は私の出生地で第二の故郷とと思っています。母方の祖母の家が以前、市役所近辺にありました。小学生のときに松江に遊びに来たときには、早朝、宍道湖や松江城を祖母と散歩していました。霧がかかったときには宍道湖のふしぎな神秘的な景色に驚きました。土蔵もありましたので、宝さがしと称して土蔵

の中を探検してしまいました。庭先の祠に、小さなこま猫犬がおいてあったのですが、それが怖くて怖くて夢にまででてきたことがありますが、でも総じて、良い思い出として心に残っています。

昨年、松江を観光がてら祖父母の家があったあたりを歩いてみました。すでに家はなく駐車場になっていました。さみしいという思いにも駆られました。が、当時から残っているものもありました。近所の医院、私が生まれた産院、よく出前をとっていた中華料理屋さんの建物を見たときにはほっとしました。

以前あったものが、何十年かたつうちに変化して、なくなっていくことはさみしいことです。八雲病院の周囲も、道路工事に変化していくことを肌で感じます。より利便性を追求して現代的なものにこれからもどんどんかわっていくのでしょうか。でも、ふっと目を少しうつつせば鶏塚古墳が、昔とほとんどかわらない姿でじっと佇んでいるのが目に入ります。遠い昔から（千五百年程度は）あのままの姿でずっとあるのでしょうか。変化の中にもずっと変わらない芯のあるものがあるのかもしれません。ほしいと思っています。

遊便第11号：もくじ

巻頭言	1
特集 心理士①	2
シリーズ病院機能① 外来	3
たまごさんからのお便り	4
熊本地震義援金 活動報告	4
地域連携を考える	5
法人アクセス	6

特集 心理士

第1回 日々の心理士業務について

臨床心理士 門脇 侑衣

日本には、こころの問題に取り組む職種として、心理カウンセラー、心理療法士、心理相談員とさまざまあり、多くの方が支援に携わっております。中でも、臨床心理士（Clinical Psychologist:CP）は、公益財団法人日本臨床心理士資格認定協会が認定する民間の資格であり、心理学に基づく知識や技術を用いて、人間の“こころ”の問題に取り組んでいます。

臨床心理士の活動領域はさまざま、医療・保健、教育、福祉、大学・研究所、司法・法務・警察、産業・労働、私設心理相談、と多岐にわたって支援を行っています。また、心理業務は、活動領域によって内容が異なりますが、主に4つの業務が挙げられます。

①心理アセスメント

問題の状況や課題などを面接や心理検査などによって明らかにし、自己理解や支援に役立てます。

②心理面接

心理カウンセリング・心理療法といわれるもので、相談に来られる方々の課題に応じてさまざまな臨床心理学的方法を用いて、心理的な問題の克服や困難の軽減にむけて支援します。

③臨床心理的地域援助

悩みの解決のためには、個人だけではなく、その人を囲む環境への働きかけ、情報整理や関係の調整を行ったり、他の専門機関と連携することもあります。



面談を行う門脇心理士

④研究活動

臨床心理学の知見を確実なものにし、研究活動を行っています。

以上が臨床心理士の主な業務内容になります。当院では、2人の心理スタッフが勤務しており、担当医からの指示のもと心理検査を実施しています。それぞれの方が抱える心理的な問題の状況や課題を明らかにし、ご本人や支援に携わる治療スタッフとどのような支援が望ましいかについて考えていきます。

また、心理面接も行っており、入院中の方には、ベッドサイドや病棟の面談室にうかがってお話しさせていただきます。外来通院の方には、面会室において毎週あるいは隔週に決められた時間にお会いして、守られた空間でお話ししていただくことが可能となっています。ことばを介しての面談が難しいと感じ

る方に対しては、絵を描いていただいたり、ゲームなどの遊びを通して心理面接も行うこともあります。

さらに、当院では、自分のお酒の飲み方に問題を感じている入院・通院の方を対象に、週に1度のアルコール・ミーティングを行っています。グループの参加には主治医の許可が必要となっていますが、その後の参加は任意としています。活動は少人数グループで、アルコール依存症に関する資料や体験談等を利用した認知的学習を行うとともに、自らの体験を話したり、他のメンバーの話をきくことにより、自分自身のアルコールの問題への理解を深めることを援助します。

患者さんのこころに寄り添いながら支援をしていくことを目標に日々業務を行っています。

（次回は第2回「デイケアにおける心理士業務について」です）

シリーズ病院機能

① 外来

安心できる医療の場を目指して 外来看護・医療事務部門から

(外来看護部門)

外来・看護部門では、3人のペテラン看護師と1人のフレッシュ看護師で、診療介助、外来看護を他職種（事務・薬局）と共にチームワークで行っています。

外来診療

（月～金） 8：30～12：00

（土） 8：30～11：30

予約制なし

予約制ではなく、2診制となっており、初めての診察の時にスムーズに受診しやすくなっています。また、院外処方を取り入れ、患者さんの待ち時間の短縮に努めています。

患者さんは、長期の通院治療が必要な場合もあります。個々の患者さんが、病気と上手に付き合いながら社会生活ができるように、通院の途絶えた患者さんのために、電話で様子をうかがい通院につなげるなどの工夫をして、患者さんのご家族との関わりを持っています。

患者さんの安心できる場となるように、病院の理念に基づき、笑顔で患者さんの話を聞いたり、診療時間外での患者さんからの電話で話を聞いたり、服薬、診察についてのご相談などに対応し、通院支援に心掛けています。

法人内関連施設（たんぼぼ・コスモス・ピ・フレンドिंग・八雲DC・雲陽の里）や訪問看護とつながりを持ち、患者さんの情報を共有し、病状の変化に対応し、医師との連絡を取り、患者さん、ご家族の不安、苦痛が軽減できるよう努めています。

良い医療、良い看護ができるよう、多職種と共に協力して、安心し

て通院治療できる場の提供のため、八雲病院外来部門を支えて行きたいと思っています。

・困ったことがあったら相談しやすい、病院へ来たら安心できるように雰囲気づくりに心がけています。

・診察室の蘭の花に心を癒やされ、患者さんが笑顔であるように日々の看護に努力いたします。

外来看護師一同
（岩田）

(外来事務部門)

私が学校を卒業し医療事務を始めた頃は、手書きレセプトで、月末・月初は当たり前に残業をしなければ提出日に間に合わない時代でした。

その後、医事コンピューターの導入で、残業は減っていきました。現在は、オンライン・レセプト・チェックシステムの導入で、残業はほとんどなく、査定減にもつながっています。

2年に1度の診療報酬改定があり、中医協の改定案を、早期にインターネットから取り出して勉強し、院内の診療会議に、最新情報をいち早く知らせなければなりません。改定内容は、年々複雑化してい

て、医師・看護師・病院すべての職種を巻き込んだ前向きな検討が必要となります。

診療現場でのコスト意識の向上が、算定率向上につながります。故角南院長からよく言われていました。「みどり本を読んで攻めていかないといけない」と。

医療費が国全体で40兆円になっている今、医療費削減の対策が急務となっています。

今回の改定では、多剤投与の減薬の評価や、退院支援の評価が点数化されています。算定できなければ意味がありませんが、現実には、難しい状況です。

さて、医事業務で一番大事なのは、患者さんが最初と最後に来られる部署でもあり、患者さんに良い印象をもっていただくことです。業務ばかりに集中するのではなく、外来全体を見ながら、その患者さんにあった各種制度のお知らせを、外来患者さんなら自立支援医療制度、入院患者さんなら減額認定証制度など、安心して通院・入院ができますようにお伝えしていきたいと思います。

（福島）



穏やかな雰囲気の待合室



たまごさんからの お便り

5月18、19両日は松江総合医療専門学校^{（注）}の学生さんが6人、7月7日は島根県立大学の学生さん6人、同月14、22、28日の3日間は松江高等看護学院の看護実習生の方が3人、ピ・フレンジング、精神科デイケアたんぽぽ、自立訓練施設コスモス、就労継続B型事業所八雲会で過ごされました。

それぞれの日の最後に1日のふりかえりを行い、学生の方それぞれが実習を通して何を感じ、何を

学ぶことができたのかをうかがいました。

「私たちが当たり前^{（注）}に生活していることが、過去に長期間入院をしており普通の生活から離れた利用者の方々にとっては“当たり前^{（注）}のことでない”ということを感じることができました」「自分たちが“日常を楽しむ”という当たり前^{（注）}の感覚が、利用者の方には持っていないことを知る事ができた。就労訓練やデイケアなど日中活動のない週末をどのよう

に過ごしていいのかわからないという感覚があり、一人でも週末を過ごすことができるようにするために訓練をされている、ということがよく分かりました。こうした生活のしずらさを感じながら利用者の方が日常をおくっていることを知るから我々の支援が始めることの大切さを学びました」こうした感想や気づきを聞かせていただくことが、日常接している我々職員にとっても、大切なフィードバックとなります。また、こうしたふりかえり、感じたことを意見交換し合うことの大切さをお伝えし、感謝の言葉も添え実習を終えました。

（森脇）

「統合失調症 がやってきた」

島精連主催
島根県共同募金会助成事業
松本ハウスお笑いトーク&
ライフショーの報告

8月7日、島根県精神保健福祉会連合会（通称「島精連」島根県内の精神障害者家族会の連合会）主催で、統合失調症や精神障がい^{（注）}の啓発を目的に開催。400人超の観客が爆笑しながらも、病気への理解や周囲の人がどのように適切な距離感を保ちながら支援できるのかを学びました。

内容は、島根県立心と体の相談センター小原所長の疾病解説、お

笑いコンビ「松本ハウス」のお笑いコント&トーク、島根県立大学の学生と島根県精神当事者会の安達代表らと松本ハウスの座談会の3本立てで行いました。

当日は地域活動支援の一環として、本法人地域活動支援センターピ・フレンジングの職員2人がお手伝いさせていただきました。（森脇）

熊本地震義援金 活動報告について

今年4月16日に熊本地方を震源とする震度7、マグニチュード7.3の大地震が発生し多くの方が被災される大災害となりました。当法人におきましても少しでも熊本地震被害のお役に立てればと考え、5月30日から6月4日の短期間ではありましたが募金活動を致しました。



義援金を手渡す法人スタッフ（右）

多くの職員有志の協力を得ることができ、6月7日に松江市内中原町にあります日本赤十字社島根支部を訪問し「熊本地震災害義援金」として53,700円を募金することができました。（狩野）

わしらは怪しい雑魚釣り隊

椎名誠：著（マガジン・マガジン）
2008年初版 税込1440円

今回から新しく本の紹介コーナーができるにあたり、なかなか本が決められなかった所、ある職員さんから教えてもらった1冊です。

椎名誠さんが探検仲間と繰り広げる釣り四方山話の数々。釣りができない私が読んでいても面白かったです。例えば、意外にもゴカイが苦手だという椎名さんの一文など思わず、「分かる分かる」とうなずいてしまいました。以前あったソーシャルクラブのごす釣り大会と重なる場面も多く、読んでいて懐かしく思い返しました。

（浜岡）



今月のおすすめの一冊

地域連携を 考える

2016サマーコンサート& 梶村健三絵画展

歌声を披露するつくしの皆さん



作業所販売では、今回「そらまめらんど」さんが初めて出店し餃子や唐揚げなどの販売をされるなど、新しい仲間の輪も広がってきていま

7月29日午後1時から3時、ビ・フレンドング交流ホールにおいて、第19回サマーコンサートを行い、89人の参加があり賑やかなコンサートとなりました。

当日は、楽曲演奏のほか作業所の物品販売、コンサートのコラボ企画として梶村健三氏の絵画展もありました。

す。次回はコンサート開始から10周年で通算20回目となるクリスマスコンサートを、12月22日午後1時から3時に開催予定ですので、よろしかったら足をお運びください。お待ちしております。

(貝谷)

7月29日、ビ・フレンドングのエントランスホール、並びに交流ホールにおいて、「第2回梶村健三絵画展」を開催しました。第19回となるコンサートとのコラボ企画として、昨年12月から開かれている個展です。

この度は、大橋川沿いの穏やかな情景を描いた60号という大作の「河畔」をエントランスホールに飾り、梶村氏がとても気に入っている15号の「氏神さん」など3点を交流ホールで披露いただきました。

個展者プロフィール

梶村健三（かじむらけんぞう）
昭和7年松江にて生まれる。（84歳）

27歳、精神病を発症。32歳、師匠に弟子入りし、34歳までの2年間絵画を学ぶ。当初は風景画が中心だったが、年を重ねるごとに花を多く描くようになる。これまでに描いた油絵は80作品を超える。毎年開催される松江市民美術展（於：島根県立美術館）に出展し、毎年入選を果たしている。

地域に広く貢献する力

4月30日、春の朝とはいえ、日差しが強く照り返す日でした。

株式会社日新電工（松江市古志原6丁目）の職員の方が作業着を身にまとい、毎年の地域奉仕活動の一環として、今年度は、本法人の敷地のまわりの溝掃除を実施してくださいました。一枚一枚がズシリと重たいコンクリートの溝蓋をいとも簡単にはぐり1時間足らず、あっという間に溝掃除が完了しました。本法人の職員が行えば、おそらく3倍以上の時間を要したのではと、経験豊富な方々の腕前に脱帽し、深く感謝する一日となりました。（森脇）



手際よく作業をする職員の方々



透明感のある作品を前に梶村氏

※梶村氏の個展が山陰中央新報7月30日付紹介されました。（ビフレの閲覧コーナーでご覧いただけます）



わたくしたちは心の声を大事にします
わたくしたちは医療水準の向上に努めます

八雲病院

医療法人 仁風会

○八雲病院（外来診療時間午前中のみ）

平日8:30-12:30 / 土 8:30-12:30

休診日…日曜日、祝日、お盆、年末年始

松江市大庭町1460-3

電話 (0852) 23-3456 (代表)

FAX (0852) 23-3495

・デイケアたんぼぼ（精神科デイケア）

※お問い合わせは代表まで

月曜日-金曜日 午前9:30-午後3:30

・デイケア八雲（重度認知症デイケア）

※お問い合わせは代表まで

月曜日-金曜日 午前9:00-午後3:40

○コスモス（自立訓練【生活訓練】事業所）

松江市大庭町1459-1

電話 (0852) 23-3360

FAX (0852) 23-3370

○ビ・フレンドィング（地域活動支援センター・相談支援事業所）

松江市大庭町1461-3

電話 (0852) 23-4111

FAX (0852) 23-4112

○雲陽の里（認知症グループホーム・介護保険）

松江市大庭町1459-1

電話 (0852) 23-3700

○居宅介護支援事業所 医療法人 仁風会 八雲病院

※お問い合わせは代表まで

ご意見箱

広報誌「遊便」に対するご意見・ご感想などございましたら、ぜひ下記までお寄せいただくと喜びます。今後とも医療法人仁風会、広報誌「遊便」共々よろしくお願い致します。

〒690-0033

松江市大庭町1460-3

(医) 仁風会 広報委員会

お知らせ

ホームページのご案内

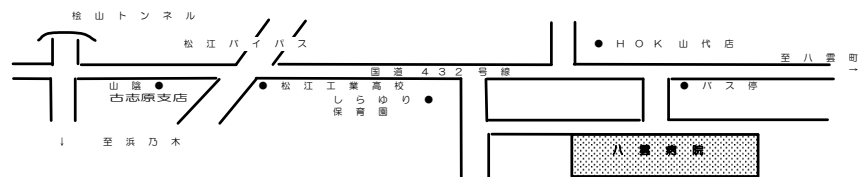
当法人の各種サービスについてホームページで紹介しております。スマートフォンにも対応しています。ぜひご覧ください。

アドレス

<http://www.yakumohp.net/>



【ご案内】



編集後記

毎年、秋の号の編集を担当するのですが、いつもあっという間に準備期間である夏が過ぎていく気がします。今年の夏は、リオ・オリンピックがあり多くの選手の活躍がありました。選手の皆さんの、毎日の地道なトレーニングがメダル獲得などの結果につながったのだと思います。自分も色々な面において、日々精進せねばと感じさせられました。

(浜岡)